

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371300738		
法人名	有限会社 ハピネス		
事業所名	グループホーム ハピネス守山 1階		
所在地	名古屋市守山区西城2丁目9-29		
自己評価作成日	平成22年1月25日	評価結果市町村受理日	平成22年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「ハピネス守山」は落ち着いた雰囲気のある住宅地にあり、しゃれたモダンな絵タイルの建物です。  
 入居者と一緒に植えた季節の花が玄関前のアプローチに色とりどりに咲いています。  
 南向きの陽当たりの良い広々としたリビングは、特に入居者のお気に入りです。  
 食事は入居者の方々と一緒に準備する旬の素材を取り入れた全て手作りです。  
 また、訪問看護や訪問リハビリ、内科医、眼科医、歯科医の往診もあり医療面においても充実しております。  
 「明るく、楽しく」をモットーに入居者とスタッフの笑顔が自慢です。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を念頭におき、利用者を敬い、個性を引き出し、また、家族のように接することで安心して生活できるように取り組んでいる。玄関前には季節の花が植えられ、家庭的な温もりが感じられる。南向きのリビングは日当たりが良く、各ユニット毎に季節感を取り入れた飾りつけがされ、利用者は穏やかな表情でゆっくりと自分のペースで過ごしている。家族には、近況報告を載せたホーム便りを毎月発送すると共に、訪問時には、温かく迎える事を心掛けることで、信頼関係が深まっている。地域とも良好な関係を積み重ねており、医療面でも、協力医や看護師等との連携が図れており安心である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、職員全体が理念に基づいて取り組んでいる。	理念をリビング等の目につく所に掲示するだけでなく、日常的にも言葉に出すことで、意識づけと共有を図り、日々のケアに活かすように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方とは挨拶したり、お庭の植木や花を見せて頂き、みかんやお花を頂く事もあります。又、毎日の散歩では顔なじみの方も増え、お声掛け頂いたりしています。	町内会に加入しており、日々の散歩時には地域の人と挨拶を交わし交流に努めている。また、町内会長の協力も得られ町内の情報をもらい、祭りの際には地域の人々と触れ合えるように心掛けている。	小、中学校の体験学習や、地域ボランティアの受け入れも、これまで以上に取り組むことで、更なる地域交流の拡大を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会に入会し運営推進会議に町内会長にも参加願い、グループホーム内の認知症の方のお話を聞いて頂き理解を深めて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での近所での状況等については内容に応じてリーダー会議にて報告し活かすようにしている。	2ヶ月に一度、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、協力医、福祉事業関係者が出席し開催している。ホームの活動報告や地域の情報収集を行い、意見やアドバイスをサービスの向上に活かしている。	利用者や家族の参加により、様々な立場からの意見も、サービス向上に活かせるように期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の介護保険課の方や区役所の保護係の方とは連絡を密に取り協力関係を築いております。	市の介護保険課や区の保護係とは、相談しやすい関係を築いている。地域包括支援センターの職員には運営推進会議に参加してもらう事で、入居者の紹介や情報交換を行い連携が図れるようになっている。	市町村で開催する研修に積極的に参加することで、ホームの取組状況を共有する機会を増やし、更なる連携強化を期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解し玄関の施錠なしで対応している。	身体拘束について、一人ひとりが理解をして取り組めるように、日々のケアの中で気付いた事はその場で話し合うようにしている。施錠については、安全に配慮して、2階と3階の入り口のみ鍵をかけている。また、利用者のその日の様子を察知し個々に対応している。	身体拘束についてマニュアル化する事で、より明確にし、合わせて定期的に勉強会を行い、全職員が、更に理解を深めケアに取り組めるよう期待する。
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間にて情報を交換し合い常に支援の在り方について話し合っている。利用者の心、身体の変化に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護センターを利用されている方も見えます。必要な方には支援をしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時や契約時には特に十分に説明しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が面会時にはスタッフが近況報告し家族との話し合いの場を作り要望等をお聞きするようにしている。	家族が来訪した際には、話しやすい雰囲気を心掛け、利用者の近況報告を行い、意見や要望を聴いている。毎月発行するホーム便りでも、写真を載せ個別の様子を記入し報告をしており、家族からも好評である。駐車場を増やして欲しいと要望があり、一部対応済みである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回はカンファレンスを聞く事とし、又、リーダー会議も月1回開催し話し合いの場を設け改善に向けている。	日々のケアの中で、職員同士は何でも意見を言える関係である。フロアリーダーは毎月ユニット毎に実施するカンファレンスで出された意見等を、リーダー会議で話し合い、運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週五日は出勤し現場の状況を把握し、やりがいのある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には順次受講し人材育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会があれば出席するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	穏やかに声掛けし不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、面接時や入所当所は特に注意を払い信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様の要望や入居者様の様子を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごし家族のつもりで言葉がけにも思いやりを忘れず良い関係を築く事に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にはスタッフと家族も仲良しである事を知って頂ける様、信頼関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会に来て頂けるよう近況報告したり、又お茶をお出ししたりして対応に努めております。	本人の想いを尊重し、今までの生活が継続できるような支援を心掛けている。利用者の友人や知人が来訪した際には、温かい雰囲気でお迎えするように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように性格をよく把握し、スタッフが声掛けし話題作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も利用者のご家族の訪問、電話には快良く対応している。退所後、遊びに見える方もいます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人から良く話を聞き、希望する事など把握するように努めている。	日常生活の中で本人にさり気なく聞いているが、あまり要望や希望は無いとの声がある。家族の来訪時にも情報はもらっており、思いや意向は出来る範囲で実現している。	コミュニケーション技法を学び利用者から要望や意向が言ってもらえるように工夫されたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人とのお話や、御家族からの聞き取りをまめにするように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や様子からご本人は何に感動し元気になるか、さぐりながら見守っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ全員で(介護記録)(申し送りノート)を活用し介護の内容をチェックし合う事になっている。	介護計画は6ヶ月毎に作成しているが、状態変化があれば、維持見直している。モニタリングは日々行い、介護記録に書き加えている。介護時計画は、本人、家族、医師、職員から意見を聞きケアマネージャーが集約して作成しており、現状に即したものになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員で情報を共有し気付いた事があれば申し送りノートや介護日誌を通じて介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容の利用や特に希望があれば近くの美容院にお連れしたりご本人の希望に合わせ出来る限り応えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの白山神社には、手を清めた際、使用するタオルを持ち毎日、家族の健康祈願するのが入居者様の楽しみとなっております。又、近所の方も良くお声掛け下さいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的な往診(内科、眼科、歯科)や訪問看護を行っており本人や家族の不安や相談に迅速に対応できるように努めております。	入居時に内科は協力医に変更される人が多い、協力医は往診が月二回ある。他の整形等はかかりつけ医となっており、家族が通院している。協力医とかかりつけ医との連携はできていて安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医より、訪問看護を週1回実施し日々の健康管理に努めている。特変などには24時間対応して相談し必要があれば医師がかけつけてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特に入院設備のある病院の担当医やケースワーカーとは連絡を取り合い情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時には必ず重度化した場合や終末期の対応について、ご家族からの希望をお聞きし常に協力医療機関との連携を持ち、取り組んでいる。家族に「事業所でできること」を説明、理解を得るよう取り組んでいる。	入居時に家族に説明しているが、水分補給ができなくなったり、医療行為が必要になった場合、家族と相談して一緒に他施設を検討するなどしている。その中でもホームでできる範囲は努力を惜しまない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	目に付く所へ心肺蘇生法や急変時の対応のマニュアルを掲示し適切な対応が出来るようにしてある。消防署の救命講習を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い日頃より意識している対応マニュアルの確認、地域の自治会長とは、入居者の様子をお話し協力体制を築いている。	年2回避難訓練を行っている。6月に消防所職員による消火器の使い方や利用者と一緒に避難誘導の仕方など行っている。	定期的に避難訓練を行い、全職員が利用者の誘導をスムーズに行うことが出来るようになることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に言葉かけには、プライバシーを損ねないように対応している。声が聞こえにくい方には耳もとで大きく声掛けをするようにしている。	職員は利用者を人生の先輩として尊重しており、誇りや自尊心を傷つけない様に気をつけている。また、自分に置き換えてみて嫌なことはしないように日々努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の思いをよく傾聴し、出来る限り希望を実現できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の表情や言葉、行動などから体調を見て、声かけを行ったり、そと様子を見るようにしている。一人ひとりの希望や思い、その日のペースなどを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った清潔な衣類を着て頂いております。スタッフが「とても似合っていて素敵ね」とほめると喜んで下さいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居様の食べたい物を聞いたり、野菜の皮むきや餃子作り等、調理のお手伝いや、食前食後の食器洗いや拭いたり出来る事を一緒に行っています。	食事のメニューは利用者にご相談して決める事もある。誕生日にはケーキをみんなで食べてお祝いをしている。職員は利用者と同じ食事は摂っていないが、食べこぼしなどさり気なくサポートして楽しい雰囲気を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事と水分の摂取量チェック表に記入し体重も月1度チェックし体調の変化にも気をつけ個々に対応するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き指導、介助をしている。歯科医や歯科衛生士より口腔ケアも必要な方には実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンをつかみ個人のペースに合わせたトイレ誘導、介助を行っている。	職員は利用者の個々の排泄パターンを把握しており、自立に向けて小まめにトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には野菜を工夫したり好評のバナナヨーグルトをメニューに取り入れ、おやつには、さつま芋をふかしたりして食べて頂き便秘にならないよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はひとりづつスタッフとおしゃべりしながら、ゆっくりと入って頂いております。入浴後の牛乳やカルピスを楽しみにしている方も多いです。	毎日入浴希望があれば入浴できるが、1日置き希望が多い。入浴拒否があっても週二回は入ってもらっている。入浴しない時には清拭をする人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御自分の居室やリビングでのテレビ観賞など又、昼寝も自由にして頂いております。空調も季節に合わせてタイマー等を利用しスタッフが調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は特に注意を払い、又個人ごとの説明書をチェックし投薬変更の時には、副作用等がないか医師や看護師にも相談しながら注意深く見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草花の好きな方とは一緒に花を植えたり、歌の好きな方とは歌詞表をダンボールで作って一緒に歌ったり生涯の中でのお手伝いも声かけして一緒に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日神社へのお参りや散歩、近くの公園には天気が良ければ餞持参でよく出掛けています。回転寿司等リクエストに応えるようにしています。	利用者でホームに居る方が好きな人もいますが、天気のいい日には近隣の神社や公園、ホームの周辺を散歩している。また、家族と買い物や外食に出かける人もいます。	同じ場所の散歩ではなく、利用者が個々に気分転換が図れるような場所の検討をされてはどうか検討されることを期待している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自分で管理できる方には持っていてはいますが少人数です。管理は難しくトラブルのもとになる事も多くハピネスにて立替で利用しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話や手紙のやり取りは自由にさせて頂いております。本人からはご家族からの希望等も取り入れ対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、清潔に保てるよう空調もまめに温度調整している。季節を感じる花の鉢を置いたり、掲示物を廊下に貼り出している。	リビングは窓が大きく開放感がある。テレビ、ソファ、テーブルなどあり、利用者は昼間はみんなと一緒に、リビングで寛ぐ人が多い。温度も適温で居心地はよい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き新聞を読んだり折り紙をしたり、気の合った方同士のお話にご利用して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具の持ち込みや家族の写真、手作りのカレンダーや誕生会のメダル等、思い思いに飾っている。	居室は、好きな本や、写真、ぬいぐるみなどあり個性的である。清潔でゆっくり寛げる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かるよう大きな字で貼紙等をしたり、ベッドの高さやテーブルの位置等、出来る限り安全面にも気を配り一人一人に合わせて工夫している。		

### 外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	町内会に加入しており、日々の散歩時には地域の人と挨拶を交わし交流に努めている。また、町内会長の協力も得られ、町内の情報をもらい、災害時の協力体制についても、町内の集まりの時に話をしてもらっている。祭り際には地域の人々と触れ合えるように心掛けている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	2ヶ月に一度、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、協力医、福祉事業関係者が出席し開催している。ホームの活動報告や地域の情報収集を行い、意見やアドバイスをサービスの向上に活かしている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	市の介護保険課や区の保護係とは、相談しやすい関係を築いている。地域包括支援センターの職員には、運営推進会議に参加してもらうことで、入居者の紹介や情報交換を行い連携が図れるようになっている。また、同区内の介護事業所が主催する輪投げ大会に参加している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	家族が来訪した際には、話しやすい雰囲気を心掛け、利用者の近況報告を行い、意見や要望を聴いている。毎月発行されるホーム便りでも、写真を載せて、個別の様子を記入し報告しており、家族からも好評である。家族から、駐車場を増やして欲しいと要望があり、2台確保したが現状でも不足しており、引き続き探している。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域との関係は良好である。町内会長は民生委員を兼務しており、運営推進会議に参加し、地域の情報を提供してくれたり、災害時の協力体制について地域の集まりで話してくれるなど協力的である。運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加してくれる事で、情報交換ができています。また、職員は家族がいつでも訪問しやすく、何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けており、家族との信頼関係が築かれている。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。